

神奈川台場

東京湾に侵攻してきた船舶に対する防衛を目的として築造された施設。海岸から東京湾に突き出るように埋め立てられ、他の台場には見られない船溜まりという構造を持っていた。

総面積は約2万6000平方メートルで、埋立には付近の権現山(神奈川県神奈川区幸ヶ谷)。

頂部は現在の横浜市立幸ヶ谷小学校の敷地に該当)の土砂が使われた。

砲台を設置していたが実戦に使用されたことはなく、諸外国の貴賓が港に入った際に祝砲を上げていたという。施設廃止後の跡地は転用され、現在はJR貨物の東高島駅の敷地などとして利用されている。

羽を広げたコウモリのような形をしていることから通称「コウモリ台場」と呼ばれていますが、実際には五稜郭のような洋風の構造。

大砲14門が設置され、延べ30万人が築造に動員されたといわれています。



図1

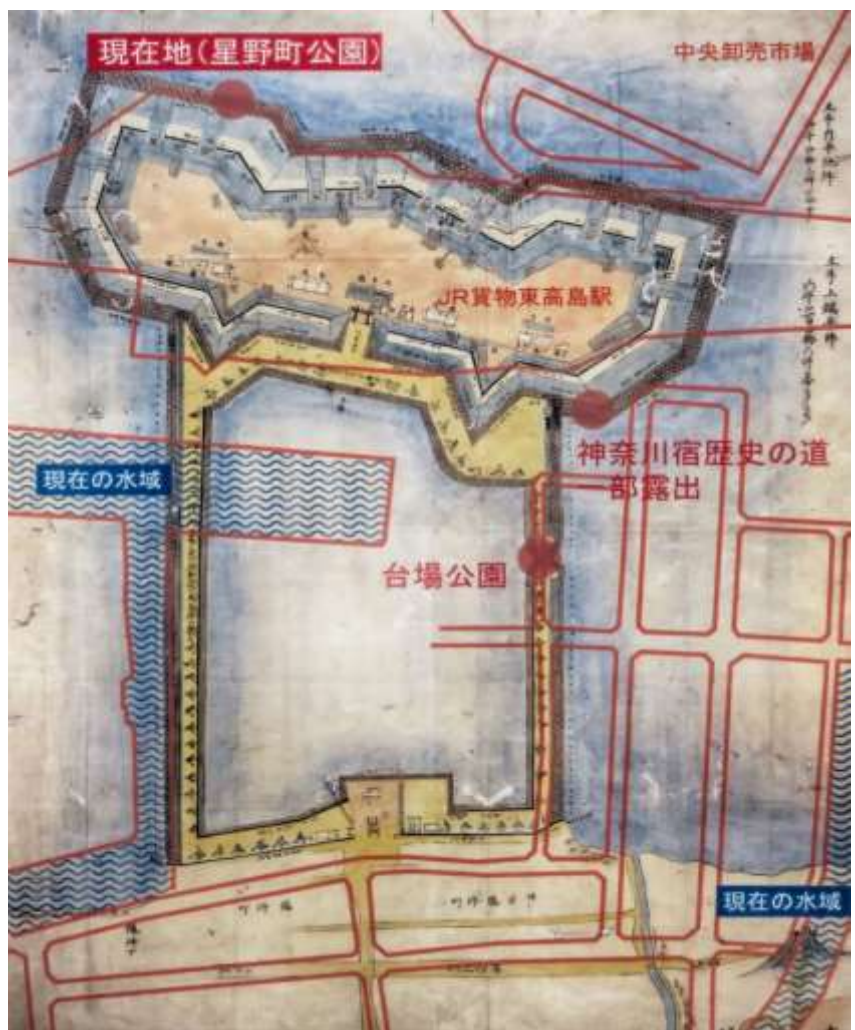


図2

図1は埋め立て後の貨物駅「東高島駅」を重ね合わせてある。

図2の赤丸の3か所の内Aがそのまま露出した遺構、掘り起こされて出土した遺構B、Cの場所を表す。